

# 令和6年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立久喜工業高等学校)

目指す学校像	「ものづくり」や「体験」を通して「技術」・「学力」を身につけ、地域の信頼と期待に応え社会の変化に対応できる人材を育成する学校
--------	--

重点目標	1 個に応じた学力と技術の向上を推進する。 授業内容・指導方法の充実を図る。資格取得等を奨励する。 2 基本的な生活習慣を確立し、規律ある生徒を育成する。 欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装・頭髪・挨拶の指導を徹底する。 3 一人一人の進路希望を実現する。 生徒の職業観や勤労観を育成するとともに、進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。 4 地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。 中学生やその保護者及び地域に積極的な情報提供を行う。地域行事等へ参加し地域連携を行う。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	9名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	13名

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 1 月 1 6 日 現 在 )			実 施 日 令 和 7 年 2 月 3 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<b>【現状】</b> 生徒の授業への取り組み状況は良好である。専門知識や高度な技術を身につける授業展開を実践している。	・成績優良者数を増やし欠点保有者数を減らす。 ・生徒の各授業への満足度を上げる。	①各教科に働きかけ、生徒の興味・関心を引き立てる授業展開をする。 ②教科の特色に合わせ、ICT機器を活用した授業を展開する。	・12月実施の生徒アンケートで「久喜工高の先生はわかりやすい授業の実施や、興味・関心を高める工夫をしている」と回答した生徒が全体で90%を超えたか。	12月実施の生徒調査で「久喜工高の先生はわかりやすい授業の実施や、興味・関心を高める工夫をしている」と回答した生徒が全生徒の84%であった。	B	本校の先生たちが実施している授業に対して、16%の生徒が否定的な見解を示している。引き続き、先生方々がわかりやすい授業を展開できるよう教育環境の整備をしている。
	<b>【課題】</b> 生徒の興味・関心を引き立てる授業を展開し、資格取得等に積極的に取り組む生徒を育てる。	・難関資格へ挑戦する生徒の数を増やす。 ・資格や検定受験の合格者を増やす。	①各教科に働きかけ、授業で教える知識・技能と資格への関連性を持たせ、目的意識向上へつなげる。	・12月に実施する生徒アンケートで「私は、授業の内容に興味・関心がある」と回答した生徒が全体で90%を超えたか。	12月に実施する生徒調査で「私は、授業の内容に興味・関心がある」と回答した生徒が全生徒の73%であった。	B	7割ほどの生徒が、授業の内容に興味・関心を示している。次年度以降も引き続き、各教科の先生に働きかけ、資格取得を奨励する。
2	<b>【現状】</b> 基本的な生活習慣を確立できている生徒が多い一方、遅刻を繰り返す生徒がいる。昨年度の問題行動は12件。一昨年度より1件増加している。	・遅刻指導と身だしなみ指導の継続的な実施を図る。学年や科と密接に連携する。	①登下校指導を年間10週以上実施する。 ②中だるみの傾向を示す2学期に、学校生活に意識を持たせる取り組みを行う。 ③身だしなみ指導を年間5回以上実施する。 ④各学年の現状に即した指導を強化する。	・生徒アンケートで「久喜工高は遅刻防止指導に、計画的に取り組んでいる」「久喜工高は服装・頭髪などに、きちんと指導を行っている」と回答した生徒が85%以上いたか。	生徒調査結果は「遅刻防止指導に計画的に取り組んでいる」が69%となり、「服装・頭髪指導などにきちんと指導を行っている」が89%であった。	B	遅刻を繰り返す生徒が増加しているため、指導の強化が課題である。身だしなみ指導は日頃からの指導を徹底し、再指導対象生徒を更に減少させることが課題である。
	<b>【課題】</b> 身だしなみ指導では、再指導対象の生徒を減少させる。問題行動を未然に防止する指導の強化や特別な支援を要する生徒への対応。	・問題行動を起こさせないための指導を図る。問題を抱える生徒を把握するとともに、対処法について研鑽を積む。	①学年団・各学科との連携を密にし、生徒個々の情報共有を図る。 ②特別支援委員会や教職員研修会の内容を充実させ、生徒の実態把握に努める。	・問題行動を未然に防ぐ取組が強化され、指導件数が昨年度の12件より減少できたか。 ・特別支援委員会が有効に機能したか。 ・教職員研修会で知識・資質が向上したか。	12月末現在、問題行動は11件で、前年度より1件減少した。特別支援教育に関する教職員研修会を実施し、「合理的配慮」に対する知識を深めることができた。	A	問題を抱え支援を必要とする生徒の増加に伴い、問題行動の内容も多様化している。問題行動の実態把握に努める必要がある。宇都宮大学(巡回支援員)や医療機関などと連携を継続するとともに、カウンセリングの体制を強化する。
3	<b>【現状】</b> 就職率・進学率100%達成が継続している。進路行事を、学年担当と連携をとりながら実施することができるようになった。	・就職率、進学率100%実現を継続する。 ・保護者に対する情報提供の回数。	①ハローワーク主催の企業との情報交換会に参加し進路指導部内や、各学年と情報共有をする。 ②渉外部主催の進路研修会や、支部懇談会等の運営において情報共有をし、保護者への情報提供を積極的に行う。	・就職率・進学率ともに100%達成できたか。 ・アンケート結果による保護者の進路情報提供に対する満足度が85%以上達成できたか。	就職率を99%、進学率を99%に達成することができた。(12月末現在)生徒アンケートの結果、進路の情報提供に関する満足度は77%であった。	B	進路未定者が3人(1.5%)、自己開拓が4人(2.0%)いる。1年次からの進路意識を高められるよう学年団とさらに連携していく。
	<b>【課題】</b> 保護者へ積極的に進路情報を提供できる機会を増やし、進路説明会やインターンシップ等、学年の進路行事を学年と連携して組織的・系統的な進路指導ができるようにする。	・インターンシップのアンケート。 ・各進路行事の生徒による感想。	インターンシップの事前・事後学習等、各学年でやるべきことを整理して質を高め、生徒の進路選択・決定に繋げる。	・生徒アンケートの結果において、本校の進路指導に関して、肯定的な意見が90%以上達成できたか。 ・各進路行事について、生徒の満足度が80%以上達成できたか。	第1回応募(9月)の入社試験合格率が、93.4%(前年度91.1%)となり、過去最高となった。また、生徒アンケート結果、進路に関する回答が各項目で80%以上であった。	A	学年進路担当と連携して進路行事を組織的に、系統的に実施できるようにする。担任の書類作成のチェック体制を整える。
4	<b>【現状】</b> 社会の変化に伴い、生徒募集が定員に満たない状況が続いている。地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。	積極的な情報発信を行い、学校理解を進めて、本校志願者数を確保する。	就職率100%に向けての手厚い指導や、県内1位、全国上位の資格取得の実績など、工業高校そして本校の優位点を、HP、インスタ、出前授業、メール配信システムなどを使い、効果的に情報発信していく。	・HPアクセス回数、HP更新回数、インスタフォロー数が前年度より増加したか。 ・入学志願者が、各学科で定員を充足できたか。	年300回以上HP更新することができ、11.5万アクセスがあった。各部活動・公式Xやインスタフォロー数も伸びている。県教育局1/15志望状況は、1学科で倍率1倍を超えたに過ぎず、予断を許さない状況が続いている。	B	各所から情報を吸い上げ、今まで以上に、インスタ、HPを積極的に更新するなどし、情報発信を続ける必要がある。募集行事に全職員の協力を得ながら、入学志願者倍率をあげていく努力が必要である。
	<b>【課題】</b> 本校の充実したカリキュラムや進路指導の状況を、各種のイベントに積極的に参加したり、学校説明会・体験入学の内容を充実させ、地域住民や中学生、保護者に幅広く本校について認知される取り組みが必要である。	地域に根付いた工業高校として、情報提供を行うとともに地域に貢献する。	①地域の各種イベントや小中学校、児童センター等との交流事業を積極的に継続し、地域に貢献できる活動を行う。 ②体験入学や学校説明会の内容を精査し、本校の活動内容を中学生徒と保護者へ周知する。	・各種イベントや地域の交流事業に積極的に参加し本校の学習内容や技術を地域に周知できたか。 ・生徒アンケートの「地域から良い学校だと評価されている」と回答した生徒が85%以上いたか。	出前授業等、イベント、交流事業にも積極的に参加した。生徒アンケートの結果、「地域から良い学校だと評価されている」が61%となっている。	B	休日実施の募集行事に対して、職員の働き方や負担が大きいと意見もあるが、学校説明会に、中学生・保護者が積極的に参加できる日程の模索などを行い改善を行っている。

学校関係者評価		
実施日 令和7年2月3日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		
・授業の内容がわからない生徒に対して何か対策を講じたほうが良い。		
・どのようにICT機器を活用しているのか。		
・学んでいるすべての内容に興味を持たせるのは難しいので、学んでいる内容がどのように就職先などで活用されているのかを教えることが大切ではないか。		
・生徒が校則などの見直しを行い、生徒発信の校則にすれば、生徒が校則をしっかりと守るのではないか。		
・久喜工業高校の生徒は近所では評判が良い。とても指導が行き届いている。		
・生徒の進路が就職・進学に分かれていることにより、苦勞されていることがあるのではないか。		
・全国的に見ても、工業高校から大学への進学が減っている。教育課程上の問題がある。(数学Ⅲを履修していない生徒が多い)		
・求人倍率が高いので就職はできるが、すぐに辞めてしまう生徒も多い。高校での遅刻や欠席に対しての指導が大切。		
・中学校で面接指導をしていると、工業高校を志望する生徒は、資格取得やゲーム製作、動画編集に興味がある。資格取得等をPRしたら生徒募集に活かせるのではないか。		
・授業の内容と資格取得の結びつきなどをホームページに載せれば、生徒募集につながるのではないか。		